



アセビ

64 編は **ダビデの詩、賛歌** です。詩人は冒頭で、**神よ、悩み訴えるわたしの声をお聞きください。敵の脅威からわたしの命をお守りください。(64:2)** と、悩みを抱えていることを訴え、その内容を伝え、助けを求めています。

「悩み」と言えば、マルタ、マリア姉妹のマルタでしょう。**主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」(ルカ10:41)** と、注意を受けています。マルタは多くのことを心に抱え、心を乱して

いました。主イエスに優しく名前を呼んでもらい、気遣ってもらえたマルタは幸せ者です。

ダビデの悩みは **敵の脅威** サウル王についてだけでしょう。ダビデはサウルの忠実な臣下であり、娘婿であり、将軍です。しかしサウル王の嫉妬、疑心暗鬼による手の平返しなど、敵意、殺意を何度も向けられ、ダビデは逃げて、**わたしを隠してください** と求めるしかありません。サウル王の名を口に出して批判することもしません。誰にも訴えることのできない苦しみを心の中に抱えていましたが、ダビデは神に向けて「悩み」に苦しむ自分を助けて下さいと祈り求めます。

詩人の敵の武器は **彼らは舌を鋭い剣とし／毒を含む言葉を矢としてつがえ 隠れた所から無垢な人を射ようと構え／突然射かけて、恐れもしません。／ 彼らは悪事にたけ、共謀して罠を仕掛け／「見抜かれることはない」と言います。(64:4)** とありますように、まずは毒のある、虚偽である言葉を放ち、傷つけることです。しかも、隠れている、即ち、自分は露見しないようにする。また、共に働く仲間を作って、一緒に悪事の段取りを練っている。そして秘密裡に罠をしかけている。正々堂々とではなく、突然隠れた所から攻撃する、という卑劣さです。彼らは **巧妙に悪を謀り／「我らの謀は巧妙で完全だ。人は胸に深慮を隠す」と言います。(16:7)** と、自らが、暴力的で、腹黒く、嘘つきであることを自慢させているのです。こういう敵に対して、力のない無垢で純真な者は勝つことができるでしょうか。

詩人は **神は彼らに矢を射かけ／突然、彼らは討たれるでしょう。(64:8)** と、詩人が自ら武器を取って戦おうとするのではなく、神が敵と戦い、そして裁くことになる信じます。そして、敵は **自分の舌がつまずきのもとになり／見る人は皆、頭を振って侮るでしょう。(64:9)** と、むしろ、敵が自らの罪によって自滅することになると言います。そして、それを見ていた者すべてが **頭を振って** つまり、激しく、彼らを侮蔑すると言います。そして最後に **人は皆、恐れて神の働きを認め／御業に目覚めるでしょう。主に従う人は主を避けどころとし、喜び祝い／心のまっすぐな人は皆、主によって誇ります。(64:10)** と神を賛美します。

『讚美歌 21』では、37「いと高き神に」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-06-30> を関連付けています。作者 Nikolaus Decius (1490-1541) はルターの子で、ラテン語の賛歌を土着の低地ドイツ語に翻訳し、作曲した人です。これが最初の会衆の讚美歌となりました。神による平和を求め、高らかに賛美しています。ジュネーブ詩編歌の 64 編の曲は 1542 年に作曲されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=z3v5cUfxUf4&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=64>